

生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	当院における小児脊髄髄内腫瘍の神経症状・徴候の検討		
1. 研究の目的と方法	子どもの脊髄髄内腫瘍はとてもめずらしい病気ですが、頭痛、背中の痛み、腰痛、背骨の湾曲などのあまりめずらしくない症状が少しずつ進行していくため、診断までに時間がかかることが少なくありません。しかし、脊髄腫瘍によって、脊髄が圧迫されることによる症状（背中や首の痛み、異常な感覚、筋力の低下、排尿障害、排便障害など）出現すると、その後に治療を行っても、元に戻らないケースも多いため、早めの診断や治療を行うことが重要になります。 この研究は、過去に東京慈恵会医科大学附属病院 小児科で、診断・治療を受けた脊髄腫瘍の患者さんのうち、腫瘍が脊髄に転移した方や白血病を合併されている方などを除いた患者さんの症状や診療情報を電子カルテから抽出・収集して、詳しく調べることで、脊髄腫瘍を早期に発見するために日々の診療で注意すべき点を明らかにすることを目的に実施します。		
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2025 年 12 月 31 日まで、研究の実施を予定しています。		
3. 対象となる方等	2015 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日までに東京慈恵会医科大学附属病院 小児科で診断、治療を行った脊髄腫瘍の患者さんです。年齢・性別は問いません。		
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	試料は使用しません。	
	(2) 試料の取得の方法	試料は使用しないため、該当しません。	
	(3) 情報の種類	性別、症状が出た年齢、病名が分かった時の年齢、病気の名前、症状が出ている身体の部位、初めて病院に来た時の症状や医師の所見、症状が現れた時から病名が分かるまでの期間、後遺症の有無やその内容、modified Rankin Scale（神経運動機能に異常をきたす疾患の重症度を評価するスケールで 6 段階にわけられる）の結果	
	(4) 情報の取得の方法	診療録から診療時のデータを収集します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3) の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 当施設の 研究責任者 または研究 代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学 小児科学講座
		氏名	高見 遥
	(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥	
	(3) 当施設の	(1) の研究責任者と同じ	

	試料・情報の 管理責任者	
	(4) 共同で研究 を実施する 施設とその 責任者	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。
6. 試料・情報を他 機関とやり取り することについて	この研究では、外部の機関と試料・情報をやり取りすることはありません。 試料・情報の利用開始予定日：2025 年 2 月末頃～	
【問い合わせ先】	機関名：東京慈恵会医科大学 小児科学講座 研究責任者：助教 高見 遥（たかみ はるか） 電話番号：03-3433-1111（内線：2331） 対応時間：平日 9：00 ～ 16：00	

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。
研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。